

さがえ 寒河江市への アクセス

列車をご利用の方

東京駅から山形駅経由寒河江駅

東京駅から山形駅まで:山形新幹線(2時間45分)
山形駅から寒河江駅まで:左沢線(30分)

東京駅から仙台駅経由寒河江駅

東京駅から仙台駅まで:東北新幹線(1時間35分)
仙台駅から北山形駅まで:仙山線(1時間15分)
北山形駅から寒河江駅まで:左沢線(27分)

山形空港をご利用の方

東京(羽田)発

東京(羽田)から山形空港まで:1時間(1日2往復)

大阪(伊丹)発

大阪(伊丹)から山形空港まで:1時間15分(1日3往復)

名古屋(小牧)発

名古屋(小牧)から山形空港まで:1時間5分(1日2往復)

札幌(新千歳)発

札幌(新千歳)から山形空港まで:1時間5分(1日1往復)

山形空港から寒河江駅

山形空港から寒河江駅まで:空港ライナー(予約制タクシー)有(20分)

車をご利用の方

東京方面から

東京(川口JCT)から村田JCTまで:東北自動車道(3時間30分)315キロメートル
村田JCTから寒河江ICまで:山形自動車道(40分)53キロメートル

宮城方面から

仙台宮城ICから村田JCTまで:東北自動車道(15分)18キロメートル
村田JCTから寒河江ICまで:山形自動車道(40分)53キロメートル

新潟方面から

新潟市から寒河江まで:
日本海東北自動車道から国道113号と国道287号(3時間5分)164キロメートル

※時間や距離はおよそのものです。



お問い合わせ

寒河江市 企画創成課 TEL.0237-86-2111

〒991-8601 山形県寒河江市中央1丁目9-45 <http://sagaecitypromotion.jp/>



SAGAE

さがえ 山形県寒河江市<移住ガイドブック>

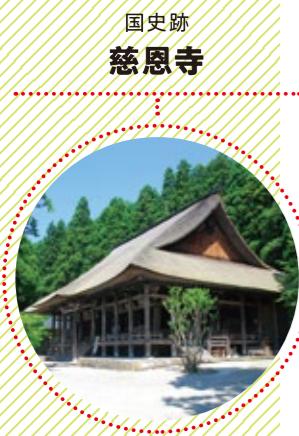
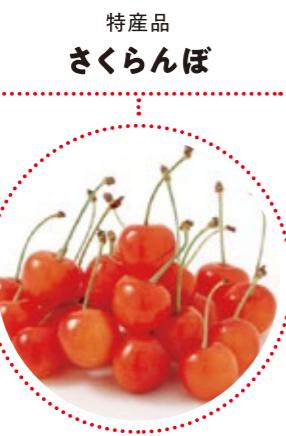


おさがしのくらし、
さがえしにあります。

はじめまして！

さ が れ 寒河江市って こんなところです。

寒河江市は山形県のほぼ中央に位置し、最上川、寒河江川が流れ、出羽三山で有名な月山や朝日連峰、奥羽山脈などの山々に囲まれるなど豊かな自然環境に恵まれています。山形県内でも有数の生産量を誇るさくらんぼや、千年以上もの歴史を有する古刹・慈恩寺、勇壮な担ぎ手がひしめき合う神輿の祭典など、自然・文化・歴史が融合する魅力あふれる街です。生活に必要なものがコンパクトに揃い、車で山形空港へ20分、山形駅へ30分、仙台へ1時間程と交通アクセスも良く、近年子育て世代が増えています。

国史跡
慈恩寺特産品
さくらんぼ市民のまつり
寒河江まつり「神輿の祭典」心も体も健康に
スポーツに親しむ街

国史跡である本山慈恩寺。境内には、重要文化財の本堂はじめ三重塔・薬師堂などが建立されています。迫力ある十二神将や、御本尊の弥勒菩薩など国重文指定の仏像も多数！

寒河江生まれの品種「紅秀峰(べにしうほうう)」をはじめとする、さくらんぼの生産が盛ん。お裾分けでたくさんいただきのが、寒河江あるあるのひとつ。

毎年9月開催、寒河江八幡宮の例大祭として800年以上の歴史を持ち、中でもフィナーレを飾る神輿の祭典は東北最大規模！約4,000人もの担ぎ手が寒河江の夜を粋に盛り上げます。

マラソン、自転車、ウォーキングなど、老若男女が楽しめるスポーツイベントが充実。スポーツを通じた活動あるまちづくりを進めています。県内では豊富な雪でウィンタースポーツも！

緑と澄んだ空気のある暮らし。



葉山で登山・ハイキング

修験の山「葉山」は標高1,462mでアクセスも良好！休憩所「葉山市民荘」、湧水「長命水」など見所が点在。



寒河江川の渓流釣り

寒河江川では月山を眺めながら、ゆったりとフィッシングが楽しめます。夏には鮎釣り客で大にぎわい。



いこいの森キャンプ場

一泊一張200円から！市街地より車で10分程度行くことができ、釣りやハイキングも出来るアウトドアスポット。



河原で芋煮にBBQ

山形の秋の風物詩「芋煮」を楽しむことができる、チェリーランド河川敷公園の芋煮広場など、無料の施設が充実。

寒河江市街地MAP



田舎なのに便利！寒河江の3エリアをご紹介。



山間部「葉山」

中山間部「田代／幸生」

平野部「市街地」

山菜採り、登山などで広く親しまれている「葉山」を中心とした山間部。美味しい湧き水や、直売所に並ぶ高原野菜、キノコなど、山の幸が豊富！

葉山の麓の緑豊かな風景が広がる農山村地域。小学校をリノベーションした自然体験が楽しめる施設もあり、平野部「市街地」へ車で30分以内で行き来でき、買い物、通勤などのアクセスも良好。

コンビニ（20店）、大型病院（2院）、産直（2店）、スーパー（11店）、高校（2校）、賃貸住宅多数。JR、高速ICもあり近隣都市部にほど近く、普段の生活にも遠出にも便利！

寒河江の交通事情



メインはクルマ 大人はほぼ1人1台所有

公共交通機関は寒河江駅（JR左沢線）を中心に走っていますが自家用車での移動が中心。お酒を飲んだ時は代行車が便利！

市内循環バス デマンドタクシーが運行

JR・バス会社の路線に加え、低料金の公営交通サービスが充実！高齢者や冬場の交通手段として活用されています。

自転車を活用した 街づくりを推進中！

サイクルイベントや道路の整備をはじめ、自転車を活用したまちづくりに取り組んでいます。

雪道の運転

豪雪地帯ほどではありませんが、冬には降雪や路面凍結があるため、スタッドレスタイヤなどの対策が必要です。

育てる、住む、働く。全てに充実の支援。

子育て



寒河江市は子育てに本気です！近年、支援制度を活用される子育て世代が増えています。

寒河江 子育て

検索

安心して結婚・出産・子育てできる環境づくり、将来を担う「さがえっこ」の育成に力を入れています。

ご好評の声続々！
病後児保育施設「げんきの森」・「あいはーと」
病児保育施設「ゆうきの森」

- 新生児誕生時、高校入学時、10万円給付
- 3~5歳児の副食費が無料
- 兄姉と同時入所の第2子保育料が無料
- 同時入所以外の第2子保育料が半額
- 第3子保育料無料
- おたふく風邪予防接種費を助成
- 新生児聴覚検査費を助成
- 小中学校の給食費が無料
- 小中学校の全普通教室にエアコン完備（普通教室以外もエアコン設置を推進中）
- 高校3年生まで医療費無料
- 高校3年生までインフルエンザ予防接種費を助成
- 不妊症・不育症治療費を助成



住まい



寒河江 移住

検索

住まいを建てる・買う

住宅の建築・購入・リフォームを支援！

県内	子育て世帯 支援タイプ (市外)	定住者 支援タイプ (市外)	子育て世帯 支援タイプ (市内)
新築・ 建売購入	100万円	50万円	50万円
中古住宅購入 (購入費の1/2)	50万円 (上限)	50万円 (上限)	50万円 (上限)
実家等リフォーム (工事費の1/2)	50万円 (上限)	50万円 (上限)	市民向け 補助制度あり

県外からの移住者向け補助金（最高200万円）もあります。
多子世帯には補助額をさらに上乗せ！
「フラット35」金利引き下げ制度も利用可能。

農業を始める際の不安を解消します。
農業体験ツアーや、農業研修なども実施中。

就農



寒河江 新規就農

検索

新規就農者のアパート等賃借を支援！

**最大毎月4万円+
光熱費5千円を5年間補助**

条件
●50歳未満であること
●寒河江市から認定新規就農者の認定を受けること
または農の雇用事業（研修制度）などを活用する農業研修生ほか

新規就農者の施設整備、
営農機械購入を支援！

最大100万円を補助

農地賃借料の補助、
農業アドバイザー料なども補助。
条件
●寒河江市から認定新規就農者の認定を受けることほか

Uターン夫婦の奨学金返還を支援！

最大125万円補助

条件
●夫または妻のいずれかの親が西村山地域に居住していることほか
西村山地域外からの転入夫婦、現在学生の方を対象とした奨学金返還支援もあります。

運転免許の取得を支援！

県外からUターンした世帯の運転免許取得を応援！

最大15万円補助

条件
●東京23区（在住者又は通勤者）から移住し、山形県が選定した中小企業等に就業した方
●山形県の起業支援金交付決定を受け起業した方ほか
ペーパードライバー講習・雪道講習受講への支援もあります。

県外からの移住



山形県外から寒河江市に移住される方向けに
さらに充実のサポートを揃えています。

**ブランド米
「つや姫」60kg
味噌 3kg 醤油 3リットルを
プレゼント**

※単身世帯は米40kg、味噌2kg、醤油2リットル

条件
●山形県外からの移住であること、
●転勤や進学による異動でないことほか

**東京圏から移住された方に
最大100万円支給**

条件
●東京23区（在住者又は通勤者）から移住し、山形県が選定した中小企業等に就業した方
●山形県の起業支援金交付決定を受け起業した方ほか

※制度内容は2021年4月現在のものです。

先輩移住者インタビュー

さがえって どうですか？

実際に寒河江市に移住した方々にインタビューし、
移住のきっかけや寒河江の魅力など、
普段の暮らしについてお話を伺いました。

理学療法士（卓さん）・医療事務（亜貴菜さん）

清野 卓 さん（30）

亜貴菜 さん（30）

前住所：山梨県 移住年：2019年



“この場所で、家族を育んでいきたい”

まだ半年ですが
寒河江は住みやすい街ですね

寒河江出身で理学療法士の卓さんは、尊敬する先生のもとで仕事をしたいという志を持ち、7年間、山梨県の病院に勤務。奥さまの亜貴菜さんとも、山梨で知り合いました。「いざなは地元に帰ってきたいという思いがあって、定年を迎えた親のことも考え、Uターンを決意しました。就職は、山梨時代の横のつながりから、山形市の病院に決めました」。結婚して半年でのUターンに、亜貴菜さんは「心の準備をする前に彼が行動しちゃった感じ（笑）。私は、彼より半年遅れて寒河江に来ました。ここに来てまだ半年ですが、生活面で不自由なこともなく、住みやすいと思います」と話します。そんな卓さんと亜貴菜さんですが、「先日は雪フェスティバルと一緒に行きました。山梨にいる妻の家族にも寒河江に遊びに来てほしいし、これから2人で寒河江の春夏秋冬と一緒に楽しみたい」と、これから寒河江での生活を笑顔で語ってくれました。

家賃補助に奨学金返還支援…
とても助かっています！

市の移住者支援制度を活用している清野さんご夫婦。「Uターンを検討していたときに、市報を見た親からいろいろな支援があるのを聞いて、すごく手厚いな、という印象を受けました」と、卓さん。亜貴菜さんも「お米やお醤油、お味噌をいただけるのはすごく嬉しいです。何より、いただいたお米が美味しいです。感謝しています」と話します。卓さんは「僕は奨学金返還支援を受けているので、とても助かります。そして、改めて地元の食べ物の美味しさに感謝しています」と寒河江の良さを実感していました。「将来的には子どもが欲しいと思っているので、子育て支援も手厚い寒河江でよかった」と話す亜貴菜さん。卓さんも「今はまだ賃貸アパートですが、いざなは家も建てたいと考えています。住宅建築の補助はありがたいですね」と家族の夢を話してくれました。

※家族構成、年齢は2020年2月当時のものです。

さがえってどうですか？

農家(さくらんぼ、ナス etc.)

岡部 洋介さん(40)

優子さん(38)

あずま
東茉ちゃん(10ヶ月)

前住所:千葉県 移住年:2012年



“人として豊かな暮らしが寒河江にありました”

農業ができたら楽しそう
それが移住のきっかけです

奥さまの優子さんが寒河江出身で「何度か来るうちに、都会にない良さを感じて。ここで農業ができたら楽しそうだなあと思い始めたのが、移住のきっかけでした」と、話す洋介さん。東京・池袋で行われた「新・農業人フェア」で寒河江市ブースに立ち寄ったことをきっかけに、奥さまと2年間の農業研修に参加することに。洋介さんは「一番大変だったのは、方言です(笑)。指示もアドバイスもわからなくて苦労しましたが、土づくりやトラクターの乗り方、農業の基本を丁寧に教えていただきました」。研修を終えた岡部さんご夫婦は、独立にあたって寒河江市の就農支援補助を受け、営農機械などを購入。現在は、さくらんぼやナス、ブロッコリーなどさまざまな野菜や果物を作っています。「自分で作るまで、こんな風にさくらんぼって実をつけるんだとか、ブロッコリーってこんな風になるんだとか、全然知らない。あと、僕はこっちに来てから狩猟免許を取って、鴨を自分でさばいたんです。それまでスーパーでパックに入っている肉しか見たことがなかったんですが、肉にしても野菜にしても、命をいただいているという実感と感謝の思いがわきました」と、洋介さんは感慨深げなご様子でした。



初夏には丹誠尽くしたさくらんぼが実ります

子育て支援も手厚く
働くママにはありがたいです

現在10ヶ月の娘・東茉ちゃんの子育てに奮闘する優子さん。「寒河江は子育て支援も手厚いので、ここで子育てできるのはすごく安心です。高校3年生まで医療費も無料ですし、私はまだ参加していないんですが、ママサークルもいろいろあるみたいです。あと、病児保育施設のことはよく聞いています。そういう支援制度って、働くママにはすごくありがたいですよね」と話します。



東茉ちゃんにとっては葉っぱも遊び道具、畑も遊び場です。

もう間もなく歩けるようになる東茉ちゃんに優しいまなざしを送る洋介さんと優子さん。

「農業って、子どもと接することのできる時間が、長い仕事だと思うんです。娘がもう少しだ大きくなったら、畑で遊ばせながらさくらんぼの収穫をしたりできるじゃないですか。すごく楽しみだし、実現したら泣いちゃうかも(笑)。この自然の中で子どもを育てることが出来て、とても良かったと思います。子どもも、親も! 寒河江で元気にのびのび育っています!」と洋介さんは語ってくれました。



カメラマン

松田 光広さん(47)

前住所:タンザニア 移住年:2016年

“世界を見てきたからこそ、寒河江にたどり着いた”

地域おこし協力隊募集を
偶然目にしたことで寒河江に

兵庫県出身の松田さんは「大学卒業後に会社員として就職したんですが、教員免許を持っていたので、やっぱり先生になろうと思ったんです。地理歴史の免許だったので、世界を知っておいたほうがいいと思って世界50ヶ国を回ったんですよ」と世界を巡るきっかけを語ります。

帰国後は「30歳を目の前にして、もともと好きだった写真もやりたいなあと思って。それで専門学校に行って、卒業後は大阪でファッションの広告カメラマンをやっていました」。その後「40歳になるタイミングで、『また海外に行きたいなあ』と思って。たまたま青年海外協力隊で写真を教えるボランティアがあったので、受けてみたら合格できた。3ヶ月間でスワヒリ語を覚えて、タンザニアに2年間いました。その2年間を経て、日本に戻ってきたときに、偶然、寒河江の地域おこし協力隊の募集を目につきました。その内容が『軽部草履』という伝統ある草履についての情報発信だったんです。アフリカ帰りで“日本っぽいもの”に関わりたいと考えていたことと、この仕事であれば僕のこれまでのスキルが活かせると思い、応募しました」。

地域おこし協力隊時代に軽部草履と共同開発した新商品
若者や海外からの観光客など、新たな顧客層にも好評

3年間、寒河江の伝統産業の情報発信や商品開発まで、さまざまなことに関わりながら山形の食や風土、伝統行事に触れた松田さん。「寒河江にどんどん愛着が増して、自分ができることがもっとありそうだと思って定住を決めました」。

この場所から東北の
いろんな情報を発信していきたい

3年間の活動期間を終えた今は、寒河江の特産品の写真や企業のパンフレットなど、寒河江を拠点として広告写真を撮影するフリーランスカメラマンとして活躍しています。「寒河江は食べ物がおいしくて、ゴミゴミしてなくて住みやすい。それに、僕は寒河江を田舎だと思ってないんですよ。街の中心部にいたら、買い物だって不便なこともないし。もっと大変な暮らししてるところもあるしね(笑)。世界を見てきたことで、改めて日本の地方の良さに目を向けることが出来て、寒河江と出会えた。海外に出ていなかったら、ここにたどり着いてなかったんじゃないかな」と笑います。

そんな松田さんに、これからの夢を聞きました。「この場所から、たくさんの人に喜んでもらえる情報を発信していきたい。あとは、移住者の仲間が欲しいですね。どんどん来て~!(笑)」。



世界中を回ったフットワークを活かし、寒河江の魅力を発信!